

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 25 年度

事業所番号	2773500406		
法人名	有限会社 夢野家		
事業所名	グループホーム夢野家		
所在地	大阪府南河内郡千早赤阪村水分593番1		
自己評価作成日	平成 25年 5月 18日	評価結果市町村受理日	平成 25年 7月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JizyosyoCd=2773500406-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 6月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・民家改修型のため、障子や畳など馴染みのある昔ながらの暮らしを感じていただき、座り込んだり、這って移動されたりと『靴を脱いだ暮らし』の良さを発揮していただいています。
 ・重度の方でもできるだけ布パンツにパットで対応し、トイレでの排泄を大切にしています。又、歩行不安定になられても家の中では自由に動いて頂き、寄り添うケアに努めています。
 ・旬の自家製野菜を中心に調理し、季節感を味わえる食事を楽しんでいます。
 ・入居者6名の少人数ならではのフットワークの良さを活かし、映画や花の鑑賞など、外出や外食の機会を多くもつようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

有限会社夢野家が運営する1ユニットのグループホームです。大自然に恵まれた築後50年を迎える瀟洒な古民家に、6人の利用者がゆったりと暮らしています。運営責任者の育った家でもあり、地域とのつながりが強く、近隣住民との行き来も活発です。畑には自家製野菜が豊富に実り、新鮮な食材を使った安全で美味しい食事を提供しています。職員の定着率が高く、利用者との信頼関係が築かれており、利用者の趣味や意向を大切にした支援を進めています。利用者は三味線を弾いたり、絵画・書道・活花をしたり、会話を楽しんだり、食事の下ごしらえをしたりして力を発揮しています。運営推進会議では利用者が自己紹介をして出身地の民謡を披露するなど、メンバーとの交流を図っています。コンサート、映画観賞、有名スターの歌謡ショー、村の棚田ライトアップ、夏祭り納涼大会、花の文化園や古民家訪問、喫茶店やレストランでの外食等外出に力を入れ、家族を誘って遠足に出かける取り組みも年間行事として楽しんでいます。利用者が希望する場合には、最後までホームで過ごせるように看取り支援にも力を入れているグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が「そのままのあなたでいい」「老いる自由を楽しみましょう」の理念を理解し、利用者には尊敬と共感を持って関わっています。笑顔の絶えない地域に愛されるグループホーム作りが当ホームの願いです。	「そのままのあなたでいい」、「老いる自由を楽しみましょう」を理念として、地域の中でその人らしい暮らしができるように支援しています。管理者は理念を玄関に掲示して共有し、職員とともに「地域に愛されるホーム」「笑顔の絶えない運営」に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	村内の利用者を2名新しくお迎えしたことで、近所の方の訪問がより頻繁になっています。また、近所の顔なじみの方を訪問したり、農家の方から米や野菜を分けていただいたり、日常的に交流しています。	ホームは築後50年を迎える古民家で、運営責任者の育った家でもあるため、地域とのつながりがあり、村の行事に参加したり、近所の方が利用者を訪ねて遊びに来られたりしています。また、利用者と職員が近所の方を訪問したり、地域の作業所と交流したり、近隣の農家から里芋や野菜をもらったりして繋がりを深めています。	代表者や管理者は、地元利用が増えていることで地元からの注目度が高まっており、グループホームを理解してもらう好機であると考えています。村内の行事や施設に出かける機会をさらに増やし、利用者との交流を進めることで、グループホームの暮らしぶりをアピールし、認知症の方への支援方法の手本となるよう取り組みたいと考えています。今後、取り組みの成果が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域の行事には積極的に出向くようにしています。そこで、地元の方に声をかけていただいたり、手を貸していただいたりする機会も多く、感謝の気持ちを表すことで、地元の方々の理解も深まっているように感じます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況やサービスの報告、評価への取り組みなどを話し合っています。利用者にも参加していただき、生の声を聞かせていただく機会も持つなどして、サービスの向上に活かしています。	運営推進会議は、利用者、家族、民生委員、村役場職員、地域包括支援センター職員等の参加を得て、昨年度は年間3回開催しています。会議では利用者が自己紹介をしたり、出身地の民謡を披露したりしています。職員からは、ホームで楽しく取り組んでいる旅行や映画鑑賞会等の外出支援、レクリエーションや地域交流、トイレのリフォームや電気製品の更新、火災予防と災害対策、医療連携、事故発生予防、看取り支援等の報告を行い、意見交換をしています。委員からは「利用者と花の苗作りに取り組んだらどうか」「利用者が車の多い道路を通る時の安全確保について」等の助言をもらっています。ホームでは、会議で出された意見や助言をホーム運営に活かしています。	運営推進会議は、2カ月に1回、年6回の開催が望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には村職員が参加しています。日頃から様々なことで相談しており、よき理解者として多数のアドバイスをいただき、サービスの質の向上に繋がっています。	村役場職員とは日頃から交流があり、ホーム運営についての相談をしたり、情報交換をしたりしています。また、個別ケースについての相談をして、助言をもらうこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全職員対象に年1回身体拘束に関する勉強会を開いており、全ての職員が身体拘束をしないケアを行っています。日中は交通量の多い国道沿いの門扉以外は全て開錠しております。</p>	<p>重要事項説明書に「高齢者虐待防止法の遵守」及び「身体拘束のないケアの実践」を明記して、全職員に研修を行い、身体拘束のないケアを実践しています。ホーム内の縁側を含む5カ所の出入り口については、全て開錠しています。交通量の多い国道沿いの門扉については施錠をしていますが、裏の畑に通じる門扉は開錠しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止の講演会に参加するようにし、持ち帰って伝達講習を行い、周知徹底を図っています。普段から職員のストレス防止に気を配り、何でも話し合える雰囲気作りを心がけています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、成年後見制度を利用されている利用者がおられます。権利擁護に関する研修会に管理者や職員が参加して理解を深めています。関係者との関係も密にしており、制度の活用を支援しています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項説明書を提示しサービス内容をわかりやすく説明しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や家族と信頼関係を結ぶように職員全員で努め、何でも気軽に話していただけるような雰囲気作りを心がけています。出された意見、要望は全職員で検討し、反映させております。</p>	<p>家族の来訪時には、利用者の状況を説明し、意見や要望を聞いています。利用者・家族から出された要望等については、記録に残して職員間で話し合い、実現するように取り組んでいます。希望される家族には、介護記録を見てもらうこともあります。運営推進会議で出された家族意見を大切にして、利用者支援に活かしています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者や管理者は共に介護従業者でもあるので、職員の意見や提案にも共感でき、どんなことでも話せる雰囲気作りを心掛け、話し合いのもと、運営に反映させています。</p>	<p>代表者や管理者は日常的に職員の意見を聞き、ホーム運営に活かしています。さらに、月1回の職員会議で出された意見や提案については、十分に話し合い、運営に活かしています。代表者や管理者は職員一人ひとりが自己評価を行い、目標を持って取り組めるように支援しています。職員の意見を反映した運営を行っていることが、職員の定着率の高さから伺うことができます。</p>	<p>代表者は同業者とのネットワークを活用し、職員同士の意見交換の場を作ること検討しています。職員同士で勉強会を開催し、意見交換の場を持ち、経験交流を進めることで、職員の視野を広げ自己研鑽を進め、スキルアップにつながると考えています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個人の自己評価の機会を設け、職員が向上心を持って働けるようにしています。また、それぞれの職員の個性や特技を理解し、やりがいを持って働けるよう努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修(基礎研修)を受講している職員が4名います。他にも、それぞれの職員に適した外部研修の機会を作ったり、定期的に社内勉強会を開いたり、スキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとは合同での行事を多く設け、職員同士の交流を促し、サービスの振り返りと質の向上に役立てています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は利用者との信頼関係の構築を最優先としています。利用者本人をそのまま受け止め、転居による不安を少しでも軽減できるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯を家族から丁寧に伺い、入居することへの罪悪感を最小限にできるよう、意向や希望を伺っています。また、連絡を密にとることで共に利用者を支える関係作りを築けるように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時に当ホームが満室で利用いただけない時や、当ホームの利用に該当されないと見極めた時には、必要な該当サービスや相談先を紹介させていただきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活そのまが職員の生活につながり、職員の気持ちはシビアに利用者に伝わるので、お互い助け合いの精神で生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の変調時には家族に報告し、常に状況を共有するようにして、共に入居者を支えあえる関係を継続するため、対話を密にするよう努めています。家族が来所の時は、その場の雰囲気大切にさせていただけるよう見守り支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族や友人の来訪時には、自宅のように居心地良く過ごしていただけよう努めており、来訪は頻繁です。電話での会話が楽しみな方もおられます。	友人や知人が訪ねて来られたら接待し、ゆっくり楽しく時間を過ごされるように支援しています。ホームでは、利用者が年賀状などで家族や友人と交信できるように支援しています。また、希望される場合には、ホームの電話を提供し、家族や友人と話ができるようにしています。また、近隣の馴染みの場所に出かけて、挨拶を交わすこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は日中をほとんど居間で過ごし、職員や利用者同士との関わりを持たれています。できる人ができない人にそっと手を差し伸べる場面も多く見られ、職員から感謝の声掛けを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りをさせていただいた利用者のご主人が思い出を辿って来所されたり、退所された方が元気な顔をみせにこられたりもありました。契約終了後に家族からご相談の電話をいただくことも多く、これまでのつながりを大切にして、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言動や家族から意向や以前の生活を伺い、利用者の思いを汲み取っています。また、本人の意向を伺うのが困難な場合はなるべく本人本位となるよう職員で話し合っています。	職員は本人に寄り添い、その日の気分や感情に配慮した支援をしています。利用者が予想を超える行動をされる場合にも、そっと見守りながら思いを理解して支援するよう努めています。食事、入浴、排泄など日常生活支援については、意向を尊重し、気持ち良く過ごせるよう一人ひとりに声かけしながら支援しています。希望や意向の把握が困難な場合でも表情やそぶりを見て対応したり、家族の意見を聞いたりして利用者本位に支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族からこれまでの暮らしや生活環境について伺うようにしています。又、入居後も利用者と家族との会話の中から把握できることもあり、職員間で共有するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に合う過ごし方をさせていただこうと記録や引継ぎを基に、日々の心身状態を常に気に留め、後退しないよう、できるだけ普通の生活をしていただいています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にはミーティングで職員が話し合い、家族や利用者の意向を反映させて計画作成者が中心となって作成しています。また、介護計画に添ったケアを行うため毎日の生活記録やバイタルチェックを行っています。	介護計画作成者は、利用者や家族の意向を確認し、ミーティングで出された課題や職員の意見を反映して目標を設定しています。「24時間アセスメントシート」や「私ができること、できないことシート」を活用しています。介護計画書は職員間で共有し、実施記録を基にモニタリングを行い、6ヵ月～9ヵ月を目途に見直しをしています。介護計画書は本人や家族に説明し、了解を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録やバイタルチェック票を個別に記録しており、職員間で情報を共有しながらケアや介護計画の見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の付き添い、役所の手続きの代行など、利用者や家族の意向に添った支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩には数箇所のお地藏さん参りが中心で、その由来を教えて下さる地元の方など顔なじみも出来ました。又、近所の畑にベンチを設けて下さる方もおられ、散歩が楽しみです。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に定期的に受診する方と往診を受けておられる方があり、職員が支援しています。職員は医師に信頼を寄せており、家族も安心されています。また、家族や利用者の希望で、他の医療機関に受診の必要があれば支援しています。	利用者や家族がかかりつけ医を自由に選択し、受診できるようにしています。受診については、家族の都合がつかない場合でも、ホーム職員が付き添い支援をしています。専門医の受診支援や緊急時の対応などについても、利用者や家族の意向を確認しながら、適切な医療が受けられるようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画作成者が看護師であるため、利用者の健康状態を継続的に把握しています。また、介護職員への指示、助言に繋がっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は何度も様子を伺いに行き、医療機関とも話し合いを重ね、早期に退院できるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には入居時に終末期に対する意向を伺い、実際に直面したときには再度、意向を確認しています。医師や家族と繰り返し話し合いの場を持ち、家族の要望に添えるようできる限りの協力をさせていただきます。	利用者が希望する場合には、最後までホームで過ごせるよう終末期支援に取り組んでいます。重要事項説明書に「重度化した場合の対応に係る指針」を明記し、「ターミナル期の援助方針」を分かりやすく箇条書きにして、入居時に家族へ説明しています。ホームでは、日頃から利用者や家族の意向を尊重し対応していますが、重度化した場合には、再度家族へ意向の確認をしています。また突然、状態が変化した場合には、事前に確認していた終末期方針に添って対応する方向で良いか、再度家族に確認を行い、看取り支援をしています。職員は一人ひとりを看取りながら、いくつもの貴重な経験を重ねています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて定期的に勉強会を開いて職員全員が応急手当や初期対応ができるよう訓練し、実践力を身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの避難訓練を実施し、適切なアドバイスを受けています。4/13 早朝淡路島で起きた地震の際は夜勤職員が素早くガスを止め、冷静な行動が出来たと報告がありました。日頃から安全対策を心掛け、利用者の避難方法を全職員で確認しあっています。	年に1回消防署立ち会いの災害時避難訓練を行い、さらに独自の避難訓練を1回行っています。また、日常的に災害時の避難ルートを意識して、利用者と外へ出る取り組みをしています。管理者は火災予防に力を入れ、夜間には極力火を使わない取り組みをしています。また、電気器具等のメンテナンスを行い、年数が経過した電気器具については、発火予防のために取り替えるようにしています。災害時に備えて離れの倉庫に水、米、食料品、野菜などの備蓄をしています。大鍋や携帯用ガスコンロなども準備して、災害時には炊き出しができるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや言葉遣い、プライバシーの保持には十分に気をつけるよう職員間で確認し合っています。また、個人情報や金銭記録は扉のある棚にて保管し、目に触れにくくしています。	利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーに配慮した対応をしています。職員と馴染みの関係にあっても、言葉使いや対応については、利用者への配慮を忘れないように職員間で申し合わせています。利用者の個人情報保護については、職員の入職時に「秘密保持に関する契約書」を交わしています。個人情報に関する介護記録等は、厳重に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	職員の利便性を押し付けるのではなく、自己決定の機会を多く持つようにしています。自己決定が困難な方には二者択一や、実際に物を見ていただくなど、選択しやすい支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、起床、就寝等、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っています。希望を訴えることが出来ない方にはその方本位となるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を二ヶ月に一度利用しています。利用者はおしゃれな方ばかりです。着こなしをしていただけるよう身だしなみを整え、毎日の衣装選びをしていただいています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	隣接の畑で取れた野菜の皮むきや豆の筋取りといった下ごしらえや、後片付け等、利用者と一緒に調理を行い、職員は同じ食事をいただきながら食事介助を行います。切干大根や梅干、味噌等の保存食も利用者と一緒に作っています。	食材は、自家製の野菜、地域の農家から分けてもらった野菜や米、宅配便を活用しています。その日の材料を確認し、利用者の希望を聞いて献立を作り、調理を始めます。季節の野菜を畑から収穫し、そのまま調理するので鮮度の良い食材で美味しいサラダや煮物等ができます。利用者と歌を歌い、話をしながら豆の皮をむくなど、下ごしらえを楽しんでいます。職員も同じものを食べながら利用者の食事介助をしたり、自家製野菜のでき栄えを評価したりして、一緒に食事を楽しんでいます。時には、コースメニューにして、ゆったりと味わいながら食事ができるように工夫しています。月に数回、外出時にレストラン等で味わう外食も楽しみごとになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	水分量や食事量は毎日記録していま す。旬の自家製野菜中心の料理で、 見た目も大切にしています。咀嚼、嚥 下状況に応じた食事を提供し、食が進 まない方には数回に分けるなど臨機 応変に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを支援しています。 特に、義歯の方は口臭が生じないよう 配慮しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	排泄チェックシートから一人ひとりの排 泄パターンを把握してトイレに誘導す ることで、失敗をなくす支援をしていま す。重度の方にもトイレを使用してい たき、なるべく座位での排泄を促してい ます。	排泄は自立支援を基本に、介護度 にかかわらず布パンツを用いてトイレ での排泄を支援しています。利用者一人 ひとりの体調や排泄間隔を考慮してト イレに誘い、失敗をなくすようにしてい ます。ポータブルトイレを活用される場 合もあり、利用者の意向を尊重して、 無理のない支援を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	旬の自家製野菜中心の料理のため、 入居当初は酷い便秘症の方も緩和傾 向にあります。腹部マッサージを行っ たり、便秘解消効果のある飲食物を勧 めたりと、普段から便秘の予防に努め ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午後を入浴時間としています。重度の方は3日に一度体調を考慮しながら二人介助にて入浴されています。また、強い拒否の方には本人の希望とタイミングを合わせるよう努め、貴重なコミュニケーションの場として入浴を大切にしています。	入浴は毎日でも入れるように準備していますが、利用者の体調等を考慮して2日に1回程度の入浴を勧めています。入浴を好まれない場合もありますが、その際は無理に勧めずタイミングを見て誘導し、清潔が保てるようにしています。季節に合わせて菖蒲湯やゆず湯などを用意して楽しむこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠や休息のパターンを把握しており、利用者に合わせて入床していただいています。夜間の睡眠不足の方には昼夜逆転にならない程度にお昼寝をしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者一人ひとりの服薬状況について把握し、詳細をいつでも確認できるようにしています。服薬変更時や症状の変化などについては引継ぎ書にて情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	廊下のモップがけ、洗濯畳み、食器拭き、テーブルの片付けなど得意分野を活かした役割を担っていただいています。また、ひざ掛けを編んで自由に過ごしたり、たまの晩酌を楽しんだり、それぞれの気分転換を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調に配慮し、その方に合ったコースを選んで散歩しています。車椅子の方もなるべく屋外に出て、四季の移り変わりを肌で感じてもらっています。家族をお誘いしての昼食を兼ねた外出を楽しみにしておられます。	日頃は畑の周辺を散策して草花を摘んだり、集落の知人や作業所を訪ねたり、神社へお参りしたりしています。コンサートや映画観賞、喫茶店やレストランでの外食、植物園、遊園地、花火大会、麦畑での野外昼食会、有名スターの歌謡音楽ショー、村の棚田ライトアップ、夏祭り納涼大会、古民家訪問等々、利用者や職員が文化的にも楽しめる取り組みを毎週のように企画し、全員で出かけています。年間行事として家族を誘って遠足に出かける取り組みもしています。最近、トイレの改修等でホームを空ける必要があり、職員の新睦会を兼ねて、全員で一泊旅行へ出かけた楽しい経験もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な時には一緒にお店に出かけ、靴や衣類、欲しい商品を選んでもらって、ショッピングを楽しむ支援を行なっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や友人に電話を掛けたり、手紙を書いたりされています。特に、年賀状は重度の方にも一文字でも書いていただけるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に共用部分の整理、清掃を心がけ、不快の原因にならないよう努めています。また、四季折々の貼り絵などを製作し、単調になりがちな空間を季節あるものにしてあります。	田園風景に恵まれ、鳥や虫の鳴き声の聞える豊かな自然環境に囲まれています。古民家をそのまま活用した玄関、縁側、中央の落ちついた居間には、ソファやイスを置いてくつろげるようにしています。利用者が畳に座ったり、寝転んだりもできるスペースもあります。食堂は台所と兼用にしています。トイレ、洗面所、浴室は板張りでゆったりとして使いやすく、毎日拭き掃除をして清潔感を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分のフロアや廊下など、あちこちに椅子を置き、思い思いの場所で過ごしていただけるよう工夫しています。仲のよい利用者同士が楽しくおしゃべりされている姿を日常的に見ることができます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が一番リラックスできる空間であるよう工夫しています。また、訪問された家族とゆったり寛いでいただけるよう空間を広く取るようにしています。	居室にはベッドや家具を備え、和室と洋室を準備しています。居室は風通しが良く、ほとんどの室内から外の景色が見られます。ゆったりとした室内には、絵や飾り棚が備えられ、利用者は好みの書籍、写真、ぬいぐるみ、三味線、生け花等を置いて、居心地良く過ごしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	民家改修のため利用者には馴染みのある生活空間だと思われます。自由に歩き廻ることができ、好きな場所で過ごしていただけるようになっています。		